

対策本部を立ち上げました

ルネサス懇

団体交渉は必要不可欠

12月8日(日)に、電機・情報ユニオンとルネサス懇は協同で『ルネサス「指名解雇」リスト対策本部(以下、「対策本部」)』を立ち上げました。

ルネサスグループ連合に次ぐ、ルネサス第2の労働組合である電機・情報ユニオンは、組合員の雇用と賃金を守るべく、会社へ人員削減リストの撤回と、定期昇給の通常どおりの実施を求めています。特に組合員の雇用に深刻な影響を及ぼす人員削減リストは、労働者に著しい「負の影響」を与えるものです。したがって会社がステークホルダーである労働組合と協議をすることは、ビジネスと人権についての

グローバルなルールに則り当然となります。つまり本来であれば会社の側から労働組合に説明がなされて然るべき事項です。対策本部は本件を重要協議事項として、会社へ団体交渉の申し入れをすべきであると確認しました。

目的と手段を間違えないこと

本来、会社は私たちの生活を豊かにするために存在する「公器」です。雇用を守り賃金を保障することは、その目的の実現の一つであり、利益を上げて会社を存続させることは、その手段として位置づけられるものです。ところがいまの会社は、目的と手段が逆転していないでしょうか。しかも、そのことによって、結局は会社の存続さえも危うくなる方向へ行ってしまう危険性さえ感じます。こうした基本的な疑問についても、会社の考えを聞きたいところです。

労働相談を受け付けます

対策本部では、組合員であるか否かを問わず、無料で労働相談を受け付けています。相談は、電機・情報ユニオンのサイトまたは、左記のメールアドレス、電話番号からお願いします。

※電機・情報ユニオンは、管理職であっても加入できます。組合費は月収の1%(最高で月5千円まで)、他組合との二重加入は千五百円となっています。

人減らしという“麻薬”

人事部長になったばかりの岡本は、汚れ役を引き受け、あれこれ知恵を絞った。すべては会社を筋肉質にするための仕事だと思っていた。だが、今はそう思っていない。

「人減らしというのは“麻薬”です。まとまった人数を減らすと固定費が軽くなって、一時的に業績が回復したように見えるんです。でも付加価値を生む人材を切り捨てて、会社が強くなるはずがない。一時的な固定費削減の効果が消えるとまた苦しくなって、ダメだとわかっていても手を出してしまう。だから人員削減は会社を蝕む麻薬なんです。結局、三洋電機は最後まで麻薬をやめられなかった。」

「世間の目」というものが、いかに節穴であるかわかるだろう。「麻薬」に手を出している会社を、メディアは一時的な利益水準の回復だけを見て「勝ち組企業」と呼び、アナリストも三洋電機株の「買い推奨」を出していたのだ。「人を減らせば株価が上がる」の法則は今でも生きており、自分が麻薬を使っていることに気づかず、人を減らすことを「改革」だと思っている経営者はなお多い。

(「会社が消えた日 三洋電機10万人のそれから」大西康之著、日経BP社、264ページより引用)

電機・情報ユニオン

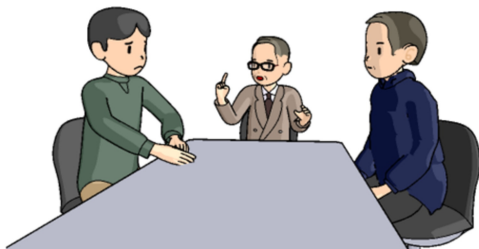
困ったら、一人で入れる
電機・情報ユニオンに相談を

連絡先

TEL 03-6421-5323

FAX 03-6421-5324

メール: <denkiunion@gmail.com>



<発行者>
ルネサス関連
労働者懇談会
(ルネサス懇)
意見と情報は、
〒142-0043
東京都品川区二葉
2-20-8 染野ビル
(電機労働者
懇談会気付)
(03) 6421-5323

電機・情報ユニオンへの相談は、

